

鴨川府民会議メンバーからの意見発表

事前に資料を提出いただいた方

(敬称略、五十音順)

菅 恒敏

中田 昭

西村 淳暉

山内 康正

山本 衣子

氏名	菅 恒敏
テーマ	鴨川の上・中・下流域別の景観管理について 鴨川（水辺）に相応しい景観づくりについて 鴨川ビジターセンター（仮称）の設置について 鴨川の総合的な生態系調査の実施について
提言 したい 意見	<p>鴨川の上・中・下流域別の景観管理について</p> <p>「鴨川に相応しい景観を」ということがよく言われますが、相応しい景観と言っても、人それぞれの受け止め方や地域（流域）によって、一つの答えにまとめるのは難しそうです。その中でも、何処の地方都市でも見られるような、画一的な景観だけは避けるべきですが、ここに鴨川の機能性を生かした、鴨川の景観作りについて提言します。（鴨川の景観整備については、すでに完成済みの所も見受けられますが、今後整備が進められる場所についての参考意見として述べます。）</p> <p>それは、画一的な景観整備でなく、鴨川の流域毎にその流域に要求される機能やバックグラウンドに合わせた景観作りを行うことです。例えば、賀茂大橋より上流では、生態系が豊かであり、自然美にも富んでいます。このような流域では、「生態系保存ゾーン」として、生態系の保全を重視した、出来るだけ自然のままの景観（例えば、ビオトープやワンドの造成など）に主眼おき、また賀茂大橋～七条大橋間の、いわゆる市街地内流域においては、「街並み美観ゾーン」として、都市美に主眼をおいた景観（例えば、桜並木・花壇などの造形美）とする。そして、七条大橋以南では、「プレイ&スポーツゾーン」として、公園・運動場・野外展示場など、リクリエーション機能に主眼をおいた景観とする等であります。</p> <p>このような、鴨川の機能を重視した流域別の景観作りにより、鴨川の景観は画一的な、無機質なものから抜け出し、「文化・観光都市京都の鴨川」の名に相応しい、そして多くの人に親しまれる、特徴ある景観を生み出すものと考えます。</p> <p>鴨川（水辺）に相応しい景観づくりについて</p> <p>現状の鴨川の景観は、多くは庭園造形美（人工的に木を植え、花を植える）が主体的になっており、それなりの美形は保たれていますが、余りにも画一的であり、しかも人工美が突出した無機質なものが多く、何処の地方都市でも見られるような景観であり、鴨川としての特徴がないことに常々淋しさを感じています。</p> <p>ここに、鴨川としての特徴は、水の流れる流域（水辺）としての景観であり、それらは河岸の整備とともに失われ、先に述べた庭園的・人工的な景観美に置き換えられていったものと考えられます。鴨川の上流域ではとくに自然の生態系が豊かな所でもあり、ここに水辺の流域に相応しい、自然のままの景観をもう一度甦らせ、「生態系の宝庫」としての安らぎに満ちた自然美と、そして大都市に流れる川に「生態系の宝庫」があることの京都の誇りを、アピールすることが出来ればと思います。</p> <p>その一つの方法として、鴨川上流域の河岸にビオトープ（自然のままの姿が</p>

提 言
したい
意 見

残された、生態系保全空間)を作ることです。ビオトープを作ることにより、生態系の保全に大きく寄与し、学びの場(学術資料)を提供するのみならず、水辺に相応しい景観を醸し出すことにより、心の安らぎと憩いの場を提供してくれるに違いありません。

なお、ビオトープ作りや、作った後の管理については、最近多方面で結成されているボランティア団体(例えば、NPO:ビオネット京都など)の支援・協力を得ることも可能であり、このような鴨川の保全・管理に対して、ボランティア活動をうまく導入していく試みは、今後の鴨川の保全部管理のあり方を議論する上で、大きな可能性をもたらすものと考えます。

ビクターセンター(仮称)の設置

鴨川の歴史・自然などを学ぶ場として、また案内所として、鴨川河岸の適当な場所(理想的な場所として、高野川と加茂川との合流点にある、下鴨神社南端の松林に囲まれた「糺の森公園」が上げられます。)に仮称:鴨川ビクターセンター(或いは他の名称として、鴨川探求館、資料館、博物館など)の設置を望みます。

そこには、鴨川の持つ機能毎に(文化歴史・景観・自然保全・防災・リクリエーションなど)資料の展示を行うのみならず、パソコンによる資料検索・水生生物の生きたサンプルや映像設備の設置、学習の場としての図書室の設置、また鴨川の観察会・研修会の企画・開催など、鴨川に関するあらゆる分野を学び知ることの出来る施設とするとともに、観光客に対する案内所として、また今後展開が期待される鴨川の保全部管理のためのボランティアの活動拠点としてなど、多くの機能を持たせた施設とします。

この施設の設置により、老若男女、子どもから年配者に至るまで、広い世代にわたる府民や、また府外・国外から来られた観光客が、鴨川の学びを通して一層鴨川のことを深く知るとともに、鴨川に対してより親しみを抱き、鴨川を大切にする意識を高める場とすることが出来ると思います。

鴨川の総合的な生態系調査の実施について

先般、滋賀県大津市で琵琶湖の生態系に関するセミナーが開催され、多くの資料を使って、流入河川の一つである犬上川の浚渫工事が、生態系に及ぼす影響について報告されていましたが、鴨川の寄り洲・中州等の整備工事の際には、十分な報告資料がなかったように思います。

このような工事が生態系に及ぼす影響を見るためには、当然ながら平日頃の調査資料の集積が必要であり、さらには工事のためだけでなく、生態系保全に関わる貴重な学術資料の整備という観点からも(に述べた、鴨川資料館設置のためにも資料の整備が必要)、鴨川の生態系の総合的な調査が実施されることを望みます。すでに姿を消してしまった生き物もあるかも知れません。或いは、今生きている生き物が姿を消さない内に、貴重な生態系の宝庫でもある鴨川の生態系の調査を実施し、データベース化しておくことが必要と考えます。

鴨川は眺めの良さだけでなく、街中で生態系が保全されている場所として、京都の誇りとする川であり、専門家・NPO・一般ボランティアが力を合わせて、是非ともこの事業を実現できるよう願っています。

鴨川「水物語」 中田昭

京都は、「山紫水明」の都と呼ばれるように、三方を山々に囲まれ、街の中央を鴨川が流れて、自然豊かな都市景観を保ち続けている。夕暮れ時三条大橋にたたずんで、鴨川の流れを北にたどってゆくと、幾重にも紫立った色彩の山並みがグラデーションを描いている。その源流に思いをはせ、鴨川「水物語」と名付けて、都市の自然遺産を継承する知恵にしたいと思う。

延暦13(794)年、平安遷都。「山河襟帯、自然に城をなす」「四神相応」の地。東の青龍(川)西の白虎(道)、北の玄武(山)、南の朱雀(湖)。

源流を護る「不動明王」岩屋山志明院

上賀茂・下鴨神社

葵祭の禊、明神川と社家、鴨脚^{いちよう}家の泉・井戸

頼山陽「山紫水明処」

「紫に匂へる山よ透き通る水の流れよ見飽く時なく」

祇園祭(祇園御霊会)貞観11(869)年

意見発表資料

2012 . 3.23

氏 名	西村 淳 暉
テ ー マ	<p>1. 治水対策の緊急性について</p> <p>2. 景観の長期的開発について</p> <p>3. 府民の意識高揚について</p> <p>4. 鴨川研究センター（仮称）設置と生涯学習について</p> <p>5. 「鴨川」の将来に向かって</p>
提言したい 意見	<p>鴨川は、その歴史、文化、芸術分野あるいは景観面で、日本の河川のモデルとして府民自らが守り育てる必要がある。鴨川条例の理念をさらに生かすため、つぎのような<u>中長期課題について提言したい。</u></p> <p>1. 治水対策の緊急性について</p> <p>鴨川は、総合的に優れた河川であるが、課題としては治水問題をあげるべきであろう。向かう 30 年間を対象とした「鴨川河川整備計画」が策定され、すでに着々実践されつつあるが、この長期計画の遂行にあたり、治水面ではさらに緻密なハード・ソフト対策が必要と思われる。</p> <p>特に上・中・下流域といった地域別の中期（4,5年）計画と京都市が主導するソフト対策とを緻密に連動させることによって、特別の異常気象時の洪水対策、減災策を緊急課題としてとりあげる必要があると思われる。（参考 淀川水系鴨川浸水想定区域図）</p> <p>2. 景観の長期的開発について</p> <p>鴨川の景観保全開発は、直接的には川そのものと河川敷周辺部分（橋梁を含む）が対象となろう。そして近隣市街地等との面としての景観対策が、さらには遠景としての京都三山との一体的環境が問われることになる。</p> <p>そこでは府・市それぞれの景観条例の連携とともに河川、橋梁、近隣市街地（社寺を含む。）の基本的整備、三山の長期的生態系保全育成がポイントとなろう。</p> <p>ところで、景観政策の基本スタンスは、古きものを保全するとともに現代都市河川開発を前提とする必要があるろう。</p> <p>具体的には、橋梁のデザインや構造点検、中流部右岸の建造物・風物の改変、鴨川テーマの市内回遊ルート開発、夜間照明、三山の保全、新しい都市交通政策との連動等があげられよう。</p>

3. 府市民の意識高揚について

鴨川の重要政策としての治水、自然保護、水質保全、景観保護・育成は、行政テーマであることはいうまでもないが、いずれの項目も流域（支流を含む）の府市民や関係団体自体に直接かかわるテーマである。その展開ため官民一体の共同活動、地域住民団体・関係団体間の連携、それぞれと学校とのタイアップ（例 地域別協議会など）が求められる。支流域を含む鴨川の保全育成は環境問題をはじめとして住民の意識と日常的活動に負うところが極めて大きいといえる。

4. 「鴨川自然と文化研究センター」（仮称）と生涯学習の展開

治水、自然保護、水質、景観対策など鴨川にかかわる研究課題を集約的に探求する官・学・民によるシステムの構築により、総合的あるいは個別的に情報収集、研究を重ねて、その成果を行政施策や各種学校、民間の学習研究活動への支援策とする。

今後は、さらに多様で高機能をもつ「歴史文化博物館」の設立も望まれる。

5. 「鴨川」の将来像をみつめて全国的モデル河川へ

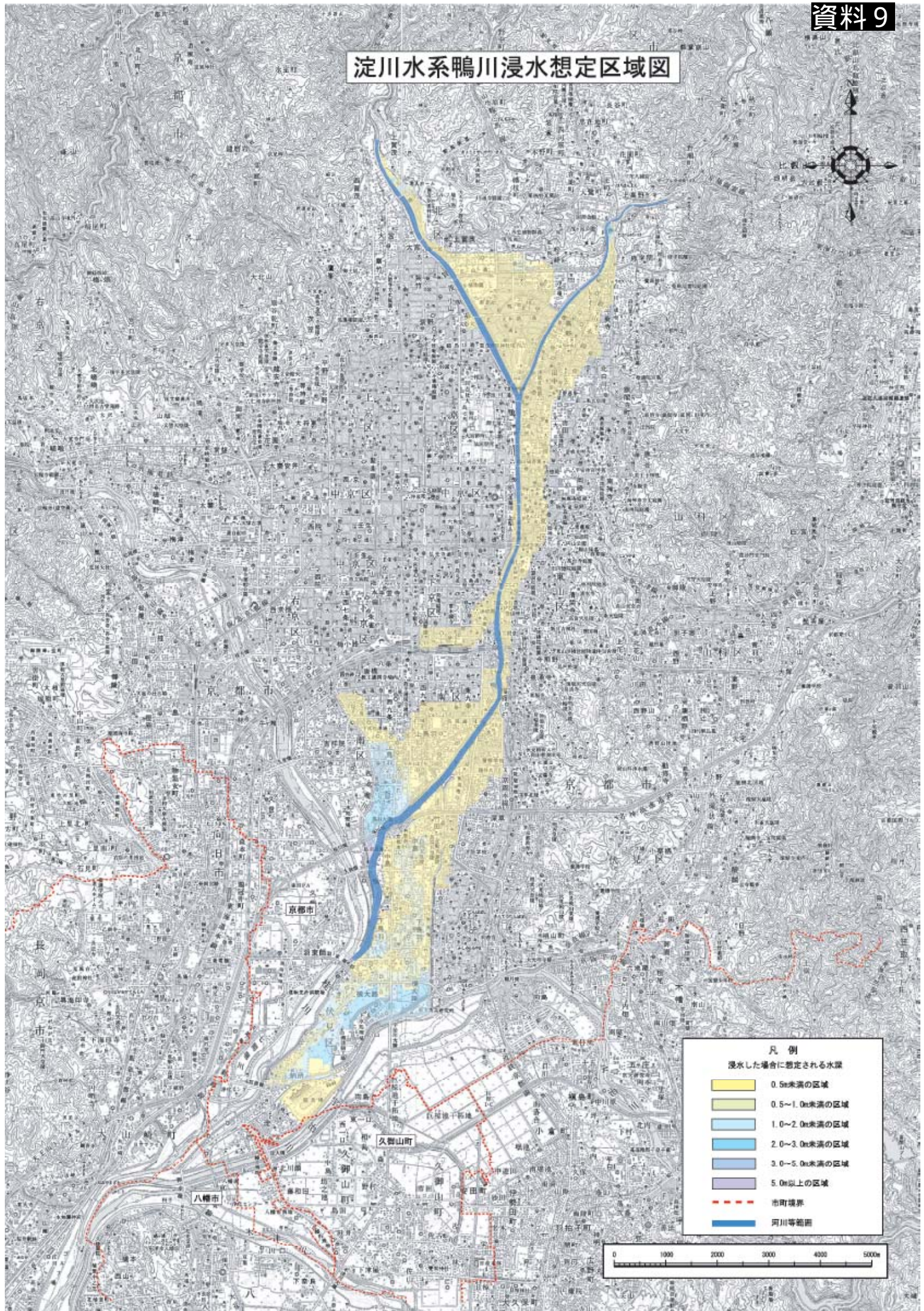
現在、鴨川は全国的にも関心度が高いといえようが、今後、鴨川条例の基本理念にのっとり（その改正も視野に）、大都市河川（淀川水系等）や地方都市河川、特に、小京都といわれる都市河川のモデルとしての展開することが期待される。

その他、当面、森林、渓谷地域を中心とした源流域の保全育成（都市公園法と連動した新しい「自然公園」への検討等）さらに長期的には「世界遺産」の登録を視野に入れた検討も府市民の統一スローガンとしての意義もあろう。

以上のテーマは、鴨川の現在と将来への好ましい姿を形成するためのポイントであろう。それは自然と人工（文化）の織り成す見事な都市美、都市機能展開の重要な要素であり、広く京都地域、近畿圏発展のひとつの起爆剤となることを期待したい。

以上

淀川水系鴨川浸水想定区域図



第二次 鴨川府民会議メンバーの任期を終えるにあたり

氏名	平成 23 年 11 月 吉日 山 内 康 正 京都鴨川ライオンズクラブ所属
テーマ	日本が誇る「京都の鴨川」に 花と緑を絶やさない為の植樹と維持管理の提言

- 鴨川半木の道（鴨川北山大橋から北大路橋までの東岸）の紅しだれ櫻の並木道が日本や世界から称賛され観光の名所となったのは官民一体の愛情こもった一環した維持管理からと信じております。

私の所属している京都鴨川ライオンズクラブは、来年 2012 年（平成 24 年）11 月 結成 50 周年を迎えます。その間、半木の道の紅しだれ櫻 73 本の植樹と維持管理を、物心労に亘り京都府と一体になって行ってまいりました。今後も京都鴨川ライオンズクラブがある限り、官民一体で半木の道の櫻並木を守ります。

今年の春、世界遺産事務局より開花に合わせて半木の道の櫻並木「花のトンネル」を「京都の花の見所」と題して、来年 2 月に写真集として世界に紹介すべく撮影に来ました。これは 50 年間の官民一体の集大成であると感激いたしました。

- 京都鴨川ライオンズクラブは国土交通大臣から「緑化功労賞」を受賞

去る 10 月 28 日には、国土交通大臣より 50 年間に亘る半木の並木道の京都府と一体となつての維持管理が認められて、東京日比谷公会堂で表彰状を頂きました。この表彰は京都府の関係各位のおかげと感謝すると共に、来年 50 周年を迎える京都鴨川ライオンズクラブにとって大変誇りに思っております。

- 鴨川東岸の花の回廊が七条から桂川合流点まで延伸と鴨川と桂川合流付近に大きな公園が出来、多くの樹木が植樹されると府民会議で知り、樹木を生き生きと育てるための私なりの提案をさせていただきます。

私はニュージーランド クライストチャーチを訪問した折、樹木の行き届いた管理にそのわけを聞き納得いたしました。

樹木は全て市民の寄付による植樹です。1 本 1 本に寄付主の名札が立っています。維持管理費は行政と寄付者の半々の負担です。枯れたら樹木を寄付した人が植え替えます。お役所任せではありません。維持管理マニュアルはお役所が作ります。

お役所は毎年 1 本 1 本成長ぐわいを審査し表彰（賞金も出ます）します。市民はお互いに競争し樹木の育成を楽しみながら継続しています。

- 鴨川東岸の松原橋から七条大橋までの歩道と植樹してある土手の間の柵の設置を府市共同で至急お願いしたい。

私は通勤のためこの道を通ります。昨年から今年にかけてクサリを放して散歩している犬が土手から河川の歩道に転落して死亡したのを 3 度目撃しました。これが人間だったらとぞっといたしました。京都府は京都市が柵を造る義務があると云われます。京都市は府が枯れた樹木を植え替えないからと云われます。府 市と協議いただき大きな惨事が起きないうちに、一刻も早く柵を設置して頂きたいと思っております。

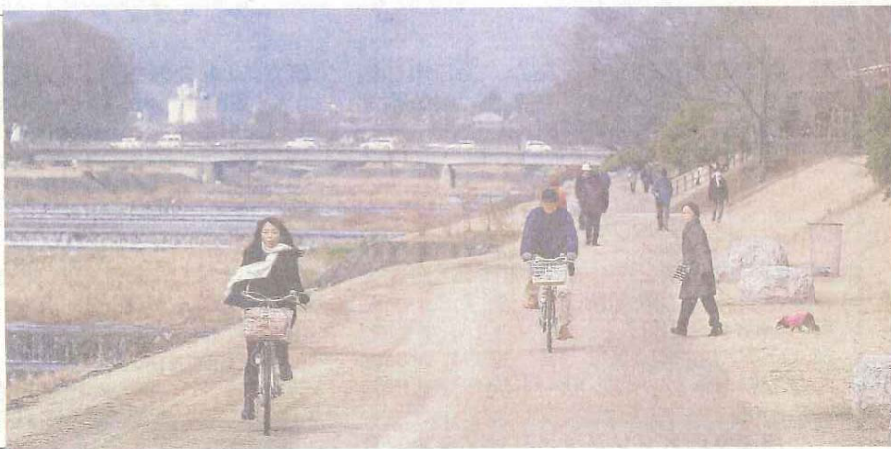
意見発表様式

氏名	山本 衣子
テーマ	1、 自然との共生に最大限の尽力を 2、 だれにでもやさしい河川敷の利用を （自転車の乗り入れ等に関する配慮について）
提 言 し たい 意 見	<p>1、 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 鴨川流域全体が公園化されてきた。それに伴い、野草、雑草など、自然の季節感を感じる植物がほとんど見られなくなった。 かつては北大路橋から上流にむかって歩けば自然の野草・雑草に出会うことができたが、今は上賀茂橋より上流でわずかに“雑草”とよばれる植物を見るのみ。 ● また、中洲、より洲の撤去改修による野鳥や水性昆虫・魚類の生態系が変化しているとの論議は当会議の中でも周知のところである。鴨川の親水性から考えても、小魚を追ったりカワニナをじかに観察したりできる貴重なフィールドとして鴨川の果たしている役割は大きいと感じる。 ● 一度失われた自然を元に戻す事は困難である。中流域の都市部の真ん中は論外としても、せめて上流域、下流域はありのままの自然を最大限残した上で、治水や流域の整備をのぞみたい。 <p>2、 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 遊歩道（散策路）の設けられている河川敷両岸は現在自転車が数多く乗り入れられている。北大路橋以南の右岸、丸太町橋以南の両岸は散策している人を縫うように走行する自転車によく遭遇する。 ● 御池大橋～四条大橋間の右岸では自転車走行はほとんどないが、逆に左岸のコンクリート道は上流へも下流へも向かう自転車がけっこうあり、特に下流に向かってはスピードも出るので幅員のせまい通路で危険を感じたことも何度かあった。 ● 下流域の整備計画では、自転車道等の区分けの予定はないと聞かすが、歩く人も、自転車利用の人も安全に快適に河川敷を利用できることが望ましい。 ● 「鴨川下流域整備基本プラン」によると 京川橋～小枝橋 右岸 イメージには『サイクリングロードからも立ち寄り、四季を感じる休憩スポット、鳥羽地区の歴史や鴨川のジョギングコースの案内サイン、伸びやかな風景を楽しむ親水空間』とある。 ● また、基本的な考え方として「今後一層地域に親しまれ、多くの人に利用されるよう連続化を図るとともに、ウォーキングやジョギング等にも利用しやすいコース設定を行う」とある。 ● このような多様な利用を見通した計画ならば、誰もが安全に、快適に憩える場所になるよう、一定のルールを設けることも必要ではないかと考える。 ● 既存の上・中流域についても、自転車道として整備されていない限り、できるならば自転車乗り入れを規制するか、走行マナーを喚起するような措置をとることができないかと思う。 <p>補足； 2012年3月2日付京都新聞夕刊 （資料参照） 【自転車スイスイ京観光】 * 渋滞知らず名所めぐり * 環境と健康に優しく 専用HPでコース紹介 「鴨川沿いを走る人たち」の写真入りで京都市が推奨する観光スタイルのPR記事との整合性について</p>

観光京スイスイ自転車

渋滞知らず名所巡り

自転車で鴨川沿いを走る人たち。ホームページや動画で移動中も楽しい自転車観光のモデルコースを紹介する1日、京都市左京区賀茂今井町11撮影・古市大



環境と健康に優しく

京都市は新年度から、自転車で巡る市内観光の推奨に力を入れる。渋滞知らずの自転車で環境にも健康にも優しい観光スタイルをアピールし、専用ホームページ（HP）や動画でモデルコースを発信していく。

京都市

開設する専用HPでは、金閣寺や清水寺、嵐山など主要観光地を巡る自転車観光のモデルコースを紹介するほか、駐輪場や貸自転車の拠点、パンクなど観光中のトラブルに対応できる自転車店の情報、自転車通行のマネーなども掲載する。モデルコースは動画でも紹介し、HPで公開するほか、DVDにも収録してホテルや旅行会社などに配布する。

専用HPでコース紹介

市が実施した2010年度の観光総合調査では、京都観光で残念に思ったことについて12・6%の観光客が道路渋滞などの交通状況に課題があると回答。マイカーから公共交通機関を使う観光への転換を目指す中、道路の混雑が京都の魅力を下げていることが浮き彫りになっていた。

モデルコースの選定は、市内約50の貸自転車店が加盟する府自転車軽自動車商協同組合レンタサイクル部会と共同で進め、今秋の観光シーズンにもHPを開設する。新年度予算案にHPや動画の作成費150万円を計上した。

市観光企画課は「盆地で高低差の少ない京都は自転車観光には最適だが、その魅力を十分発信できていなかった。英語のHPも作成し、安全で快適な自転車の旅を提案したい」としている。

（西川邦臣）